

2026年2月9日

関係各位

雪印メグミルク株式会社
酪農総合研究所

2025年度雪印メグミルク創業100周年・酪農総合研究所創立50周年
「酪総研シンポジウム」開催報告

2025年度に雪印メグミルクは創業100周年、酪農総合研究所は創立50周年を迎えました。例年、酪農総合研究所では、酪農乳業をめぐる諸問題をテーマに取り上げ、皆様と情報共有を図ってまいりました。今年度は記念シンポジウムとして「日本の酪農乳業をどうするか」をメインテーマとして開催致しました。本シンポジウムは札幌市にて実開催し、その様子をLIVE配信する方式にて開催しました。

また、創業100周年記念として実開催会場では記念品の贈呈や、これまでの当社の歴史や酪総研の歩みとして過去の資料を展示した「特別展示コーナー」を設置し、多くの来場者の皆様の関心を集めました。

当日は、全国各地から総勢で過去最高の460名を超える参加申込を頂き、成功裏に終えることができました。つきましては以下にその報告を致します。

記

1. テーマ 「徹底討論」～日本の酪農乳業をどうするか～

2. 基調講演

清水池准教授の基調講演では、需要の減少・コスト高騰・制度機能低下が同時進行する「多重危機」に直面し、コロナ後の需要低迷に加え、飼料・資材価格の高騰と円安により、酪農家の所得が急激に悪化していることを説明。従来の「価格転嫁」だけでは限界があり、在庫対策中心から「需要創出+所得支援」へ政策転換が必要であり、酪農家への直接支払い（GMP）による所得下支えやチーズの国産化による需要創出、需給変動対策基金の拡充による経営安定化が必要だと説明した。

日本乳業協会の本郷氏からは、世界と日本の人口動態・需給構造を踏まえた将来展望が示され、世界では乳製品需要が拡大する一方、日本は人口減少により国内需要と生産の縮小が進行。今後の論点としてチーズ関税の段階的撤廃や、無脂乳固形分の問題が示され、国産チーズの生産拡大が現実的かつ重要な戦略であると強調し、新たな高難度の需要創出ではなく、すでに需要のあるチーズ分野を軸に国産化を進めるべきとの提案がされた。

3. 総合討議

総合討議では『「徹底討論」～日本の酪農乳業をどうするか～』と題して、酪農学園大学の日向教授を座長に迎え討論を行った。まず、酪農家代表として大樹町農業協同組合前代表理事組合長である坂井氏、中国生乳販連代表理事長である檜尾会長からそれぞれ北海道と都府県の酪農の現状説明が行われ、酪農に係る制度・政策の重要性、環境問題、牛乳乳製品の需要拡大、特にチーズ拡大の可能性について討論がなされ、現在の酪農乳業界が抱える諸課題について、より明確により深く課題提起が成された。

4. 内 容 講演 1 「酪農が直面する課題と未来」

北海道大学大学院農学研究院准教授 清水池 義治氏

講演 2 「酪農乳業が進むべき道とは」

一般社団法人日本乳業協会常務理事 本郷 秀毅氏

総合討議 「日本の酪農乳業をどうするか」

座 長 酪農学園大学農食環境学群循環農学類教授 日向 貴久氏

パネリスト

講演会講師 2 名

前大樹町農業協同組合代表理事組合長 坂井 正喜氏

中国生乳販売農業協同組合連合会代表理事長 檜尾 康知氏

雪印メグミルク株式会社執行役員酪農部長 若林 健彦氏



主催者挨拶 代表取締役社長 佐藤雅俊



北海道大学大学院 清水池准教授



日本乳業協会 本郷常務理事



酪農学園大学 日向教授



中国生乳販連代表理事長（酪農家）檜尾氏



大樹町農業協同組合（酪農家）坂井氏



雪印メグミルク 若林執行役員



閉会挨拶 津田執行役員



総合司会 越智副部長



実開催会場の様子（京王プラザホテル札幌）



総合討議の様子



講師・パネリストの皆さんと握手で



創業 100 周年記念特別展示コーナーの設置



酪農総合研究所運営スタッフ一同

(文責：大山冬馬)